

本年度の学校運営基本方針が決まりました

- 5月11日(金)に第1回学校運営協議会が開かれ、右に示すように、本年度の本校運営の基本方針が承認されました。
- 本年度は、中村光一様を会長に、芳賀郁夫様、中村良一様、大出泰良様、中村智一様、仲澤季也様に委員としてご参加いただいております。
- 本年度の基本方針は、『ふるさと真名子』を子どもの心に刻む教育の実現です。真名子地区は独自の伝統や文化のある地区です。しかし今後、過疎化・高齢化がますます進むものと思われまます。
- 真名子地区のよき伝統や文化を後世に伝えるために、「ふるさと学習」をさらに推し進めます。
- 八百比丘尼遠足、ふるさと交流会、大宮神社清掃など、子どもたちが「ふるさと真名子」とふれあう機会を昨年度より増やし、本年度実施して参ります。
- 真名子の未来を担うのは子どもたちです。今の子どもたちを育てることは『ふるさと真名子』の未来を育てることに通じます。保護者の皆様や地域の皆様とともに学校運営に努めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成30年度 学校運営の基本方針

- 真名子地区は歴史と伝統を誇る「ふるさと」である。その歴史と伝統は真名子地区そのものであり、これからも引き継がれるべきものである。
- 本校は明治6(1873)年8月1日、円満寺にて「日就学舎」として開校以来、真名子地区とともに歩んできた。平成23(2011)年10月1日の栃木市との合併以降、栃木市教育委員会の推し進める「とちぎ未来アシストネット」事業のもと、地域の方の指導や援助を受けながら、「地域とともにある学校づくり」を行ってきた。
- 近年の若年層の人口減少傾向により、真名子地区の歴史と伝統の継承が課題となっている。課題解決の一つとして「ふるさと学習」の振興が挙げられる。真名子地区唯一の学校における「ふるさと学習」の実践は重要であり、小学校段階でふるさとを大切にすることを育てることが求められている。
- 以上より、「ふるさと学習」を軸とした教育を行うために、本年度の学校運営基本方針を

『ふるさと真名子』を子どもの心に刻む教育の実現

とし、以下の3項目の実践を行うことを通して、真名子小学校ならではの教育の実現を図る。

- 1 児童が「ふるさと真名子」の歴史や伝統を学べるように教育課程を工夫する。
 - ・地域のボランティア・ティーチャーの御指導のもと、「ふるさと民話クラブ」「絵手紙クラブ」「オカリナクラブ」の3つの文化系クラブを本年度も実施し、「ふるさと真名子」の歴史や文化のよさにふれさせる。
 - ・3年社会科地域学習や総合的な学習の時間「真名子のよいところ探検隊」、6年社会科の太平洋戦争の授業などに地域のボランティア・ティーチャーを招き、真名子の歴史を学ばせる。
 - ・地域のボランティア・ティーチャーから地区に伝わるお囃子を6年生が教えていただく機会を設け、成果を運動会で披露させる。
- 2 児童が「ふるさと真名子」のよさにふれるために、地域の方との交流を促進する。
 - ・地域の方とふれあったり、技を教えていただいたりする「ふるさと交流会」を実施する。
 - ・真名子っ子タイム(業間活動)に、グランドゴルフや輪投げ、ペタンクを、地域の方と楽しむ時間を設定する。
 - ・ディサービスセンターのお年寄りと、生活科の昔遊びを楽しむ時間を設定する。
- 3 児童が「ふるさと真名子」に向いたり、地域のために働いたりする機会を作る。
 - ・八百比丘尼堂や洞雲寺を巡る「八百比丘尼遠足」を実施し、真名子の名所旧跡を見学させる。
 - ・「真上植樹祭」に6年生を参加させ、ふるさとの緑化の大切さを考えさせる。
 - ・大宮神社清掃の回数を増やし、ふるさとをきれいにすることを体験させる。
 - ・道徳科の学習を通して、「ふるさと真名子」を大切にすることを育てる。

「ふるさと真名子」のよさを学んだふるさと交流会

- 6月1日(金)、ふるさとの名人に学ぶ「ふるさと交流会」を実施しました。
- 今年新たに「グラウンドゴルフ」を活動に入れました。



横笛・太鼓



手芸



焼き絵



グラウンドゴルフ

ご指導いただいた地域の名人の皆様(順不同)

- ・グラウンドゴルフ・狐塚光一様、大島弘明様、小島昌夫様、石川三男様
- ・焼き絵・中村良一様、芳賀郁夫様、田口義道様、坂本孝一様
- ・横笛・太鼓・田中敏雄様、落合久好様、大橋正義様、青木星一様、落合栄様、島田善一様
- ・手芸・小出和枝様、益子けい子様

- 子どもたちは、ふるさとの名人から技を楽しく教えていただきました。
- 保護者の方も多数ご参加いただき、ありがとうございました。